

科目名	経営戦略特論 Special Course in Management Strategy		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・土・集中	-	-	-
担当教員名	東瀬 朗	e - mail		

<講義の概要と目的>

企業及び組織の経営において、経営戦略の役割と機能を理解することは必須である。本講義では経営戦略に関する理論体系及び実例の理解を深化させるため、経営戦略に関連する複数の手法について、演習・討議を交えながら概説を行う。また、社会的責任(CSR)・Creating Shared Value(CSV)・Sustainable Development Goals(SDGs)など、経営戦略上今後取り入れる事が望ましい分野についても取り扱う。

<到達目標>

- ・経営戦略に関わる理論体系と実例に関する理解を深める
- ・経営戦略に関連する複数の手法（フレームワーク）について、演習を通じて使い方を理解する

<アクティブ・ラーニング要素>

フレームワークを取り扱う回については、グループワークによる演習を行い、実際の事例（あるいは学生自身に関わる事例）に関してフレームワークを用いた分析を行う。

ケースを用いたケースディスカッションを1テーマ（計2回）実施する。

<講義計画>
<11/11（土）1～4 限>
1・2 回目：<経営戦略の基本>
・要点：経営戦略の基本及び経営戦略が果たす役割について、いくつかの企業の実例を交えながら解説を行う。さらに、様々な経営戦略の内容について討議を行う。（教科書第1章・第2章）
3・4 回目：<経営戦略論で使用する分析手法の概説>
・要点：経営戦略論においては、さまざまな分析手法が提供されている。内部環境分析・外部環境分析において活用可能な各種手法・フレームワークについて概説を行う。
<12/16（土）1～4 限>
5・6 回目：<外部環境分析>
・要点：外部環境分析で活用可能な手法として5フォースズ・モデル、戦略グループ、活動システムなどのフレームワークを用いて、事業環境及び収益要因の分析を演習及び討議を通じて行う。（教科書第3章・第4章・第5章）
7・8 回目：<内部環境分析>
・要点：内部環境分析で活用可能な手法としてVRIO分析などのフレームワークを用いて、事業環境及び収益要因の分析を演習及び討議を通じて行う。（教科書第6章）
<1/6（土）2～4 限>
9・10 回目：<事業構造の分析手法>
・要点：事業の構造を理解するための手法として、CVCA（Customer Value Chain Analysis）の概説を行い、演習を通じて理解を深める。（教科書第18章）

11 回目：＜事業群のマネジメントとポートフォリオ戦略＞

・要点：複数の事業を束ねた企業運営及び新事業創出に向けたポートフォリオ戦略について概説と討議を行う。(教科書第 15 章・第 16 章)

＜1/20 (土) 1～4 限＞

12・13 回目：＜未来を読む・将来を予測する＞

・要点：戦略を立案する上で必要となる将来予測の手法について概説すると共に、討議を通じて理解を深める。(教科書第 9 章)

14・15 回目：＜社会的責任と CSV＞

・要点：近年経営戦略を立案する上で社会的責任あるいは CSV (Creating Shared Value) などの視点を含めることが望まれている。社会的責任・CSV を統合した経営戦略についてケース討議を交えて概説を行う。(教科書第 18 章)

＜講義の進め方＞

講師からの講義に加え、ケースを用いたケース討議、手法・フレームワークの理解を深めるためのグループ演習を行う。ケース討議は事前予習課題を課す。グループ演習は必要に応じて、事前予習・事前調査を課す場合がある。ケース討議及びグループ演習は、講義冒頭で講師より討議・演習の概要を説明した後、グループに分かれ議論・演習を行う。グループ討議・演習終了後、全体討議を行いグループ討議・演習の内容を共有する。グループ討議及び全体討議の時間配分については、講義内容に合わせ適時指示を行う。

＜事前事後学修内容＞

ケース討議を行う場合は事前予習課題を課す。また、要点欄に教科書の章が指定されている場合、当該章を事前に予習しておくこと。その他必要な事前学習に関する詳細については別途講義内にて指示を行う。

＜予習・復習時間＞

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をします。

＜教科書及び教材＞

井上達彦・中川功一・川瀬真紀編著：経営戦略 中央経済社

＜参考書＞

山根節著：戦略と組織を考える－MBA のための 7 ケース 中央経済社

山根節著：MBA エグゼクティブズ 中央経済社

伊丹 敬之・加護野 忠男著：ゼミナール 経営学入門 日本経済新聞社

文部科学省：イノベーション対話ツール

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm

＜成績評価方法＞

欠席 6 回以上は成績評価しない。

学期中課題 3：最終レポート 3：授業への貢献 4 の比率で評価を行う。

＜課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法＞ 原則講義内でフィードバックを行う。必要に応じて Teams 等を活用する。
＜履修条件＞ 特になし
＜ディプロマポリシーとの関連＞ アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当
＜録画映像の視聴＞ 可
＜オフィスアワー＞ 受講生の面談が重複しないように、E-mail にてアポイントを取ること。
＜その他＞ 講義内の討議を重視しますので、指定した予習課題に積極的に取り組み、議論に積極的に参加することを期待します。 変則的な日程での開講となるため、開講曜日・時限に注意すること。